

小田原史談

第 4 号

発行所 小田原史談会
小田原市幸一丁目
郷土文化館内

現代 小田原大秘録 (三)

石井富之助

その頃町同心の者共は覚縁流捕手を学び稽古をしていた。今年冬の師範人である浅尾国右衛門はふとした病にかかり歩くことができなくなってしまったが、末期に及んで高第の者どもを枕元へ呼び寄せ「我等末期の思い出に極意を伝授したいと思うが、身体がきかないので、自分を梁に釣り上げるように」と言った。こうして捕手の秘伝死活の大事を残らず伝授し、別伝は大井の浄貞という者に授けた。その時、浄貞は師の重病を考えてためらったが、かまわず組んでくるようにと命じられたので、最早これまでと組みついて行くところを、何の手もなく

傍へ投げ出した。さすがの浄貞もしばらくの間は眼くらみ、人心ついて後頭をあけて見ると、国右衛門は最早繩をといて寝床に伏し、そのまま息が絶えていた。時に享保七年十一月二十九日であった。

舌は柔なる徳によって永く保ち、歯は剛きとがあと早く落ちると言う。金成与九郎信富は一騎当千の勇士ではあったが、天命を知らなかった。

与九郎はある時品川に出向いたが、芝金杉橋に向うから来る男と思わずもさや当てをした。彼の者は知らぬ顔に小歌をうたうて行き過ぎようとするので、血気の与九郎は呼びもどして大町の豆腐屋に来て、かねて

いになじった。彼の者も立腹して言いつのり、ついに深編笠のまま立ち向ったが彼の者が刀の柄に手をかけたと見るや、与九郎はさつと逃げ出した。彼の者はそれにつけ入って追いかけたが、爪づいて例れる瞬間、与九郎のないだ刀に首が前に落ちた。与九郎は十五、六丁も逃げてふと気がつく

と左の片足が血だらけになっている。見ると左の股を四、五寸ばかり横に切られていた。

大いに驚いて手拭でしぼりながら、気が遠くなるのをさすがに与九郎、足の甲へ刀をさして心を落付け、その夜の五ツ頃ようやく通

懇意な間柄なのでここに立ち寄って休息し、ふんどしで傷口をゆわき「与九郎いたずらをしてかくの通り」と言つて水を呑んだ。その後小町のお屋敷に帰り養生して小田原へ戻ってきた。そしてさらに湯河原へ、また宮の下へ行って傷養生につとめた。

ある時、与九郎は主人に「これから小田原まで近路があるか」ときくと、主人は「此の山から北にあたって宮城野村という所があります。そこから一と山越せば小田原の近村の久野村に出て非常に近うございます」と答えた。

与九郎はそれから二十日ほど入湯したが、以前の傷がいたむので、小田原へ帰ろうと思って山伝いにやってきました。夜のことではあるし、足場もわからないので、山の頂上で木の根に腰かけ、ゆうゆう月をながめて休息をしていた。すると大狼が一匹あとからついてきてはえるので、与九郎はあやしんで刀を抜いてさやを出すと、狼は飛びかかってこじりに喰いついた。その時早く胴切に切りすてたが、万犬実を伝えてここか

黄榮宗のこと

菱田 長平

しこから狼が群れ集ってきた。与九郎は静かに両腰を抜いて、二刀で飛びかかってくるのを切りはらい、飛び越えるのを胴切りまたは車切りと切りすえたので、あたりは朱に染った。中に白狼が一匹いたが、これが飛び帰るやいなや皆々かけ去ってしまった。

小田原へ帰って与九郎は療治につとめたが、傷口からだっこのように膿がでて、いろいろ手をつくしても何の効もなかった。与九郎は「ええ面倒なり、医師も針灸も役に立たぬ」と、かみそりで切つて捨てた。しかしこれから痛みが甚だしく、ついに享保十二年正月十五日、遺骸を宗円寺に送り、無常の煙りと消え果てたのは是非もないことであつた。

宇治黄榮山万福寺を本山とし、隠元禪師を開祖とすることは世人の知る処であるが、隠元は支那の黄榮山万福寺の住持であつたのが明末騒乱を避けて、わが承応三年(1692)来朝う、万治二年(1699)後水屋上皇から賜つた宇治の里に、一字を建立したのが起源である。二代木庵をはじめ、即非・独湛・高泉等(何れも歸化人)相継いだ。所属寺院は全国に五二三寺あつて東京には港区芝白金台町に瑞聖寺(住職古市活禪師)があり、関東を管理している。小田原に長興山紹太寺山北玄倉に実相寺がある。黄榮宗に特独の精進料理があり、普茶料理と称せられ茶人に愛好される。長興山紹太寺でも近來現住職(武内永昌師)が体得の技能を以て丹精をこめて料理し、希望者の需めに応じている。仏前静かなる環境に庭園松籟の声を染しみながら禅味ある料理を味うのはまた格別である。

小田原宿駅と本陣

清水専吉郎

往古は籠、馬、歩行に依るのみの旅路ですから、其路筋の宿場に休泊する必要が多分に生じます。小田原は江戸より二日（八に由りては三日）の行程で、箱根山を仰ぎ酒匂川を控へますので宿泊の要衝に当りました。山角町、筋違橋、欄干橋、中宿、本町、宮の前、高梨町、万町の元東海道の往還には宿屋、旅籠屋が揃比して居ました。徳川時代、寛永十二年に参勤交替の制度が出来、それより本陣本陣、脇本陣が定まり、小田原宿には御本陣一軒、相本陣三軒、脇本陣四軒がありました。また一般の旅籠宿屋が百軒余もあり、此他青物町とその先に御宿と言ふものがあつたさうです。元治慶応時代のもので今に残れる筆書の宿割帖を写してみます。

京方

- 藤屋六部兵衛
- 大和屋利兵衛
- 川西屋藤兵衛
- 御馬宿小松屋吉兵衛
- かめや清兵衛
- 外良藤三郎
- 江戸や彌五郎
- 竹本や幸三門
- 内川や四郎兵衛
- すゝや彦兵衛
- 三河や十×
- 西川や源兵衛
- 脇本陣とらや三四郎
- 能のや治郎兵衛
- 大坂や与兵衛
- ふじや長兵衛
- 栢や彦兵衛
- ×や勘左エ門
- 相本陣清水彦一郎
- ××屋治兵衛
- 扇屋久兵衛
- 竹×屋幸治郎
- 小西屋源石エ門
- 横町
- 大坂や甚兵衛
- 中松や専助
- 小松や市兵衛
- 上方問屋場
- 家根や長兵衛

横町

- 相本陣久保田甚四郎
- 柳や由蔵
- 白子や平蔵
- 三笠や半四郎
- 御馬宿万や長蔵
- 小伊勢や佐兵衛
- 府川や四郎左エ門
- 相本陣片岡永左エ門
- 駒形や源六

市助

- 江戸や忠エ門
- 山本や善エ門
- 松島や源エ門
- 秩父や利八
- 脇本陣福住や吉助
- 葉年や栄治
- 外や助治郎
- 横町

亀や 助七

- 紀の国や嘉平
- ×屋長治郎
- 御馬宿松屋清五郎
- 松田や要助
- 田嶋や繁蔵
- 中丸や伴七
- 飯田や徳兵衛
- 松坂や彌兵衛
- 池田や治郎兵衛
- 尾張や市助市助

市助

- すゝ紅源八
- 山村や直エ門
- 脇本陣嶋や大郎三郎
- すや吉右エ門
- いづみや幸エ門
- 大黒や与兵衛
- 備前や紋治
- 西山や喜八
- 丸木や仁兵衛
- 新松本や治助
- 浜召御門
- 島本や伊三郎
- 伊藤や伝四郎
- 山本や忠蔵
- 明神横町
- 栢梗や伊兵衛
- 藤戸彌兵衛
- きよせや 磯八
- 米や三右エ門
- 大いせや半十郎

続く一頁より

北村透谷の墳墓のあつた院と云う寺名の寺があつた（数年前谷津高長寺に移す）前記瑞聖寺には私の一家の墓地があることも私は奇縁として居る。（黄田）

風外上人と定光院の末路（一）

（穂坂辰己）
明治初年まで小田原市上會
我村竹の内に上郡飯沢の金

剛院の蝕つて天台宗の定光院と云う寺名の寺があつた此の寺に寛永の初年行雲流水風の社々まに遷行した上羽碓氷郡土塩村の高僧風外上人が此の他に杖を止め此の定光院に仮住したと推定した。

定光院は曾我山丘の繁茂する蜜柑林の裾にありて、現今は此の寺の跡を始め附近に農家が散在して居る。

横町馬宿日比谷彦三郎

- ふじや 忠七
- 百足や彌七
- 大和や藤八
- さくらや林蔵
- 藩や留五郎
- 村田や才輔
- 下方問屋場
- 御馬宿家根や清五郎
- 横町
- 井留や太吉
- かぎや藤兵衛
- 永塚や八百蔵
- 永本や直エ門
- 粕壁や藤エ門
- 小嶋や市右エ門
- 松岡や吉三郎
- 近江や太助
- 岩本や与兵衛
- 江戸方
- 松本や清兵衛
- 八百や 善八
- 百足や市兵衛
- 若松や染エ門
- 吉野や彦エ門
- 杉崎や儀兵衛
- 小川や勇治郎
- 松田や
- 和田や安五郎
- 遠州や××宝来や茂三郎
- 松本や伊兵衛
- かり豆や庄五郎
- 福本や松五郎
- みよしや順蔵

此他小田原宿の御宿の屋並や家名が御知りの方は御知らせ願いたう存じます。

刀剣について

板橋 橋本整之介

古刀期は(天正頃迄)刀(正宗)(建長頃より嘉暦頃迄)これ迄が、備前伝山城城伝が多いので有ります。其れより正宗の頃より相州國、の五ヶ國を、五大國と申されるので有ります。其れから別れて、日本國六十余州にて、刀工鍛冶が有りましたので。

五大國と云うのは時の、將軍の所在地に銘工が居りましたので、備前の國だけは、地金の良い所故、將軍の陵元で無くて、全國で一番多い刀工の地でありました。其頃正宗と申された有名鍛冶等に、

- 新刀期は(江戸時代)江戸(武蔵國)大阪(摂津國)京(山城國)肥前國等が本場物で、他の國は浴にいう、二流物とか三流物と申されております。
- 相州刀に付いては、鎌倉時代より、江戸末期迄を、申されたので有ります。
- 源頼朝時代に、初期に山城國、粟田口の刀工鍛冶が入り始めたのです。(國宗)
- (國綱) (國安) (則家) (國光) (助貞) (鎌倉助綱) (新藤五國光)(行光)
- 貞宗三哲に山城國(信國)備前國(元重)但州(國光)と云う門人が有りました。

其の後室町時代(後期)北条早雲小田原城を取るより小田原(相州)時代と申され百年間続きました。

(広正) (綱宗) (綱家) (綱広) (康春) 等です。

新刀期、慶長頃より(三代) (綱広) (清平) (綱家)

江戸時代庶民文化展覧会を顧みて

事務局

菊蕨る文化の日を中心に秋の行事としての江戸時代庶民文化展覧会を、郷土文化館と共催で当金館を使用し、十月二十八日の土曜日から十一月五日の日曜日までの九日間催したところ、予想外の好評を博した。これというのも各理事の方々骨折りで、取材範囲を城下町並にその周辺に於ける庶民の使用せしめものと限ったからであろう。それは時代の年中行事、慣習、生活信仰、民族芸能その他何れも出品目録に追加困難に至る程の豊富な資料であったからである。

入場して先ず驚くことは、未だ見たこともない資料でしかも所せまき程までには陳列されたからであろう。

事の方々には公私共多忙の処、割当の当番によく出ていたといたことや、此の催しの前後、取材に陳列に然るも返品にいたるまで、よく責任を果して下さった。この次に細い相州伝を申し上げたいと思ひます。

中年以上の方々、眼をみはって、しばらく時代を偲び立止るもの多く老年の方には、昔懐しく過去の我家をかえりみたり今更の如く祖先に感謝し、文化財の如何に貴重であるかを語り合うなど、効果は得に百パーセント、殆ど日を追うて聞き伝えやら余りにも入場者多きため、遂いつり込まれた時の経る知らず見とれる人々。最終日の如きは三千六百余人の入場者で、階上階下共、嬉しい悲鳴をあげる程であった。中年以下の中には市内の小、中、高の児童生徒が教師に引率されて社会科学習に深い関連あるところを、熱心にノートするなど、今回の催は実に有益であった。期間中、各理事の方々には公私共多忙の

小田原周辺の遺跡分布とその概要

——細文式文化時代について——

橋 口 尚 武

この様に前期になると遺跡の数も割合と増し、又表面採集される土器片の量も増加するが、前期の遺跡はそのほとんどが条痕文系の遺跡に限られ、他に関山式土器を出土する遺跡が数ヶ所知られてゐるのみで、表面採集された資料も少なく、これらの遺跡はそのほとんどが縄文中期、後期の遺跡と複合している。(資料が少ないからと言ってこれらの遺跡を軽視するわけではない) 縄文前期の単

た此の会への協力者一同に對し合わせて厚く御礼を申し述べたい。最後に、今回の催に際し始終中心となつて日夜猥々努力をなしていただいた東海・勝野両氏に對しては連日交互に來場していられた副会長長の惜しみなき謝詞によつても伺われるが、茲に改めて謝意を表したい。

第四号

昭和三十六年十月十五日発行 (毎月一回発行)

会費 一ヶ年三百六十円

発行 小田原史談会

編集 機関紙発行委員会

発行所 小田原市幸一丁目 郷土文化館内 小田原史談会

<p>御料理仕出し 御弁当</p> <p>株式会社 東華軒</p> <p>代表取締役 飯沼相三郎</p> <p>小田原駅前 TEL (0465) 5061~2</p>	<p>純良医薬品</p> <p>株式会社 オダワラ薬局</p> <p>錦通り電三、〇四八</p>	<p>化粧品 おしゃれ彩華</p> <p>松屋</p> <p>小田原錦通り 電話三三三三三六</p>	<p>松風 銘菓 千代菊 銘菓 甘露梅 銘菓(県指定の店)</p> <p>電話 2376</p> <p>集栄堂本店</p>
--	---	---	--

<p>平野商会 平野久雄</p> <p>小田原市十字三 電話(〇四六五)二四四九番</p>	<p>写真</p> <p>イガラシ</p> <p>小田原市幸3 TEL 2534番</p>	<p>趣味の陶器</p> <p>江島屋</p> <p>小田原箱根口 電話 6602</p>	<p>志澤</p> <p>TEL 3131</p>
--	--	--	----------------------------------

<p>株式会社 小田原百貨店</p> <p>社長 神戸英次郎</p>	<p>明るい生活 楽しい読書</p> <p>八小堂</p> <p>小田原駅前 TEL 5388~9</p>	<p>小田原報徳 自動車株式会社 太陽自動車 代表者 曾我律之助 株式会社</p>	<p>伊豆箱根鉄道株式会社 大雄山線 運営事務所</p>
---	--	---	---

<p>あなたの洋品店</p> <p>はふや</p> <p>小田原幸町 TEL 2307</p>	<p>小田原信用金庫</p>	<p>きそば庵</p> <p>小田原駅前 電話二八六二番</p>	<p>松坂屋製菓本舗</p> <p>小田原市十字二 電話五二七六番</p>
--	----------------	---	---

<p>高級陶器の店</p> <p>小田原市緑1~103 小田原銀座通り</p> <p>株式会社 江島屋陶舗</p> <p>TEL (0465) 5427</p>	<p>甘露梅 月の衣</p> <p>小田原駅前 正栄堂菓子舗</p> <p>電話 5311 5312</p>	<p>寝具の店</p> <p>花田屋</p> <p>小田原銀座2 電話 3788番</p>	<p>カメラ・写真用品 なんでも揃う</p> <p>カメラの光輝堂</p> <p>小田原駅前 TEL 5965 4859</p>
---	---	--	---

<p>便利で 楽しいお買物は</p> <p>小田原駅前</p> <p>Ⓧ 箱根登山デパート</p>	<p>箱根登山鉄道株式会社</p> <p>電話小田原 (0465) 4111</p>	<p>西洋料理 御土産各種</p> <p>あさひ</p> <p>小田原駅前 TEL 2680・2681・3051</p>
--	---	---